

独 標

西東京市立ひばりが丘中学校

第1学年

第32号

令和5年10月27日発行

《敬称略》

「合唱祭で学んだこと」

1年D組

私は初めての合唱祭で得たことがあります。それは私の学校生活において、今まであまり縁のなかったことでした。

私は課題曲「カリブ夢の旅」の伴奏をしました。合唱は、指揮者、伴奏者、歌い手で構成されます。どれかが欠けてしまえば合唱祭は成り立ちません。私は今まで、何かの責任者や代表者になったことがありませんでした。ですが今回、伴奏者という責任を負って、思ったことがありました。それは「何かをより良くしようと思い、動く力」です。

私は昔から集団生活や、大勢の人の前で話すことが苦手でした。今もそれは変わりませんが、今回、伴奏に立候補することができました。きっかけはピアノが好きという気持ちと、大好きな音楽で何かを成し遂げたいという気持ちです。実際、練習では今までとは違う目線で発言をすることができました。

クラスの人達の中には、優勝しなくてもいいと思っていた人もいっぱいいるでしょう。私もこれまでの行事ではそう思っていました。代表者や責任者の気持ちを考えていなかったのです。良いものにしようと思っている人たちの気持ちを踏みにじっていました。

今回、このことを、合唱祭で気づくことができました。やはり人前に出ることは苦手ですが、一つのことを成し遂げることができて良かったです。

「合唱祭への歩み」

1年D組

10月13日、合唱祭がありました。僕は「カリブ夢の旅」で指揮をしました。

歌と指揮の練習が始まったのは、夏休みの前です。休み時間や放課後の時間を使ったり、夏休み中に登校して練習をしたりしました。指揮をするのは思っていたよりも難しく、最初はとても苦労しました。肩に力が入ってしまったりすると動きが固くなってしまったり、疲れてしまったりします。正確な4拍子でずっとふることも最初はできず、テンポがずれてしまうことが多かったです。

歌の練習では、音程・速さ・強弱の調整が難しかったです。女声は男声に打ち消されてしまうことや、男声は女声よりも早くなってしまうことが多かったです。

ですが、歌や指揮の練習をしているときはとても楽しかったです。パートでまとまり、壁を乗り越えて、なんとか合唱祭を成功させました。このような経験はあまりないので大切にしたいです。

歌は成功したけれど残念ながら最優秀賞、優秀賞、指揮者賞をとることはできませんでした。しかし、練習などの時間はとても大切なものだったと思います。この歩み、この経験をこれからも忘れずに生活し、また次の行事に生かしていきたいです。スキー学習や球技大会も頑張りたいです。

みんながもっともっと本気で、本当の力を出せる行事にできるように、もっと僕自身も力を出していきたいと思います。よろしくお願いします。

『「COSMOS」のように』

1年E組

私は、この合唱祭で自分が苦手なことに立ち向かい一歩成長できたと感じた。

なぜかという自分、歌が苦手なことが恥ずかしかったからだ。そんな不安をもったまま合唱祭練習は始まった。私は、アルトパートだった。アルトパートでは、ソプラノパートと違い低い声でデクレッシェンドやクレッシェンドが必要になってくる。そもそもデクレッシェンドは、音量を段々弱めることクレッシェンドは段々強くするということだ。私は、それ以外にも伸ばすところや声量にとっても苦戦した。でも、みんなで賞をとるためにも家で練習を頑張った。しかし、上手いかなかった。そんな中、歌の上手な友達が私と一緒に歌って練習してくれた。友達はすごく上手だったので、私もそれに負けないくらい声をだしていきたいと思えた。そして、本番を迎えて舞台へと上がった。その瞬間ものすごい緊張がはした。それと同時にピアノの伴奏が始まり、歌いだしが緊張で少し小さくなった。でも、歌うたびに段々声が出始め歌に集中できた。そして、あっという間に終わってしまった。私たちのクラスは、優秀賞だった。結果が残せてよかったという思いより、皆とより良い合唱ができたと思いでいっぱいだ。

このように合唱祭では、たくさんの努力が大事になっていく。この「COSMOS」では宇宙に広がっていくイメージが私にはあり、歌にその思いが込められていると考えた。私は、「COSMOS」を歌えてとても良かった。

「みんな努力をしていた合唱祭」

1年E組

今回は、みんな中学に入学して初めての合唱祭でした。初めて全員で練習した時は、先生が言っていたように伴奏だけが聞こえるような声量で「この先どうなることか」と思いました。それでも1年E組が優秀賞を取ることができたのは、パート練習や合唱練習、その全てで「こんな調子じゃ無理。」とあきらめるのではなく、「どうしたらもっと良くなるだろう。」とあきらめずに挑戦し、もっと良くしていこうと頑張っていたからだと思います。それを続けたことで、声も最初よりすごく出るようになり、歌詞も覚え、音もとれるようになったのだと思います。また、「〇〇もっと声出せよ」と言うのではなく、「今回は〇〇が良かったね。でも、〇〇の所をもっと頑張ろう。」と常にポジティブな考え方をしてみんなを励ましてくれたパートリーダーや指揮者伴奏者、実行委員の皆がいたからこそだと思いました。

私は本番の時、ひな壇に上がる時も列の先頭で、正直すごく緊張しましたが、これまで練習してきた全部を出し切るぞ!という気持ちで挑むことができました。それも、これまで練習し、努力して来たことがあったからだと思います。皆が努力をして、それが実り報われた合唱祭の優秀賞だったと思いました。

